

【学力向上フロンティア事業中間報告書】

都道府県名	秋田県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	湯沢市立湯沢南中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	4	5	2	16	32
生徒数	154	148	162	3	467	

研究の概要

1 研究主題

確かな学力の向上を目指し、意欲をもって学び続ける生徒の育成
～ 一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を通して ～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年，全教科で共通実践事項を中心に実践研究を推進していく。
(確かな学力は全教育活動で培っていくものであるととらえる。)

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ</p> <p>確かな学力の向上を目指し、意欲をもって学び続ける生徒の育成 ～ 一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を通して ～</p>
	<p>研究の見通し（仮説）</p> <p>一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を行い、「わかる・できる喜びや、学びの楽しさを実感できる授業」を展開するならば、基礎的・基本的な内容が定着するとともに、学ぶ意欲を高めることができるだろう。</p> <p>個を臆せず発揮できる温かい人間関係の中で教育活動を展開するならば、集団での練り合いが深まり、自己有用感と自信を培うとともに、表現力、意欲等を高めることができるだろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>授業での取組・・・授業づくり共通実践事項を設定し、全教科で取り組む。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">授業づくり共通実践事項</p> <p>(ア) 実態把握・・・実態（評価）を踏まえた授業づくりをしていく。</p> <p>(イ) 実態に応じた指導のための教材の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習熟の程度に応じた学習教材の開発（補充的な学習教材，発展的な学習教材） ・関心・意欲を高める教材の開発 </div>

(ウ) 実態に応じた指導方法・指導形態の工夫
「南中授業スタイル」に沿った授業実践，指導形態の工夫
・学び合い，練り合いの場の設定 ・発表による表現活動の設定

(エ) 学習到達目標（本時のねらい）の提示
本時，何ができるようになればよいのか，生徒もねらいをはっきりつかめるようにする。

(オ) 本時の目標の実現状況を確認する時間を設定

(カ) 単元到達自己評価カードの作成と活用

平成15年度

【指導体制】

・少人数指導 ・T T指導

教科	学年	実施形態			備考
数学	2・3	全学級	全時間	1 C 2 T (少人数)	常態として実施
英語	2	全学級	全時間	2 C 3 T (少人数)	
	3	全学級	全時間	1 C 2 T (少人数)	
国語	2・3	全学級	週1時間	1 C 2 T	効果的な単元で実施
理科	1・3	全学級	週1時間	1 C 2 T	
	2	全学級	週2時間	1 C 2 T	
社会	2・3	全学級	週1時間	1 C 2 T	

・県教育センターと学校間でのインターネットTV授業の実施 ・外部の人材活用

授業以外での取組・・・ 学びへの意欲や主体性を育む学習環境づくり

(ア) 学習機会の充実，学習習慣の育成

補充的・発展的な学習の実施

全校ステップアップ相談，3年チャレンジタイム，1・2年質問学習

自学自習の推進（放課後，毎週土曜日，長期休業中の図書室の開放）

学習推進期間の設定

(イ) 学習情報の提供

学習コーナーの設置（各学年廊下に学習プリントを準備，「学習だより」の発行）

授業改善の研修

(ア) 教科の枠を越えた校内授業参観を実施。個に応じた指導，共通実践事項を観点の中心に据えた授業参観であり，「校内授業研究日」として実施

(イ) 「授業の質を高める全体研修会」の実施。研究授業のビデオ，TV放送のビデオ等を収集し，活用

(ウ) インターネットTV授業の推進

研究のまとめ

平成16年度

テーマ

確かな学力の向上を目指し，意欲をもって学び続ける生徒の育成

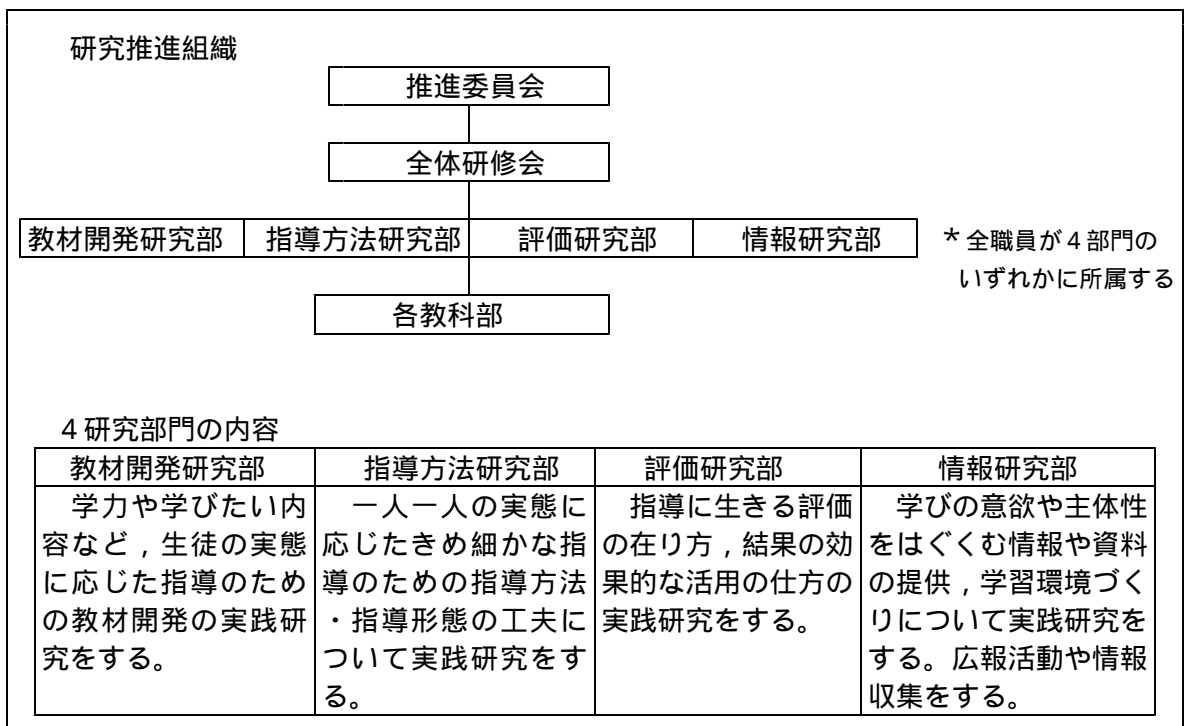
～ 一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を通して ～

研究の見通し（仮説）

一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を行い，「わかる・できる喜びや，学びの楽しさを実感できる授業」を展開するならば，基礎的・基本的な内容が定着するとともに，学ぶ意欲を高めることができるだろう。

平成16年度	<p>個を臆せず発揮できる温かい人間関係の中で教育活動を展開するならば、集団での練り合いが深まり、自己有用感と自信を培うとともに、表現力、意欲等を高めることができるだろう。</p> <p>研究の内容・方法《平成15年度の研究を検討，修正を加えながら継続》 授業での取組・・・授業づくりの共通実践事項を設定し，全教科で取り組む。</p>
	<p style="text-align: center;">授業づくり共通実践事項</p> <p>(ア) 実態把握・・・実態(評価)を踏まえた授業づくり (イ) 実態に応じた指導のための教材の工夫 (ウ) 実態に応じた指導方法・指導形態の工夫 (エ) 学習到達目標(本時のねらい)の提示 (オ) 本時の目標の実現状況を確認する時間を設定 (カ) 単元到達自己評価カードの作成と活用</p>
	<p>授業以外での取組・・・学びへの意欲や主体性を育む学習環境づくり</p> <p>(ア) 学習機会の充実，学習習慣の育成 (イ) 学習情報の提供 授業改善研修 (ア) 教科の枠を越えた校内授業参観の実施 (イ) 「授業の質を高める全体研修会」の実施 (ウ) インターネットTV授業の推進 公開研究会開催(平成16年10月7日)，研究のまとめと継続的实践への基盤整備</p>

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1 研究成果

【生徒】

- (1) 実態把握からの授業の展開を心がけたことにより、生徒の意欲を高めることができた。実態把握を生かしたグループ編成により、話し合い活動がより活発になってきた。また、英語科アンケートでは「分からないことがあったとき、先生に質問する」がコース別学習前の21%から、コース別学習後は29%に増えている。約7割の生徒がコース別学習のメリットを感じており、既習事項を振り返りながら学習を進める基本コースで特に意欲的に取り組むことができるようになってきている。
- (2) 「南中授業スタイル」に沿った授業の実践により、学習意欲が向上してきている。特に数学科の応用・発展コースでは、練り合いの場を意識的に取り入れた授業展開を心がけたことで、積極的に自分の考えを前に出して発表・説明する生徒が増え、「楽しい」「次の授業が待ち遠しい」という声が聞かれるようになってきている。いろいろな解き方や考え方に触れることで思考力も向上してきており、単元テストや定期テストの結果からも実態に応じた学習課題や指導方法を工夫することの有効性を確認できた。
- (3) 生徒の実態に応じた教材を準備したことで、意欲や技術が向上してきている。技術・家庭科では、実態把握をもとに工具や材料、ヒントコーナー等を準備した。さらに事前の技能調査（準備教材）を実施し、結果を授業での個々への支援に役立てた。準備教材の段階で努力を要する状況の生徒も自信をもって取り組み、おおむね満足できる状況へと技術も向上した。
- (4) 本時の学習到達目標を明確にし、自己評価を実施したことで、授業中の集中力が向上した。目標が明確になることで、生徒の意欲が向上することを確認できた。分からないところを積極的に質問できるようになってきている。さらに達成した満足感が次の意欲へとつながり、課題への集中した取組が継続されるようになってきている。
- アンケート結果より 到達目標が示されたほうがよい・・・98.7%
- その理由
- | | | | |
|---------------------|--------|--------|--------|
| 授業でやることがはっきり分かるのでよい | 1年:64% | 2年:65% | 3年:66% |
| 目標達成に向けてやる気が出る | 1年:39% | 2年:29% | 3年:44% |
| ねらいがはっきりしているので集中できる | 1年:27% | 2年:22% | 3年:37% |
- (5) 単元到達自己評価カードの作成と活用により、生徒は自分の努力すべき点や学習予定、チェック項目等が分かり、自主的な学習ができるようになってきている。理解した喜びや実験の楽しさなどを自己評価カードに記述する生徒が増えてきた。
- (6) 学習コーナーに準備された学習プリントを活用する生徒、図書室を利用して自学自習に取り組む生徒が増加している。

《生徒へのアンケートより～全校平均》

- ・授業への意欲、集中度 高まってきている30.7% 少し高まってきている54.8%
- ・授業を終えての満足感 得ることが多くなった16.4% 少し多くなった53.9%

【教師】

- (1) 実態把握からの授業の構築、改善により、つまずきの予想ができ、授業に際して個々

の生徒の配慮しながら指導することができるようになってきている。個に応じたいくつかのメニューを準備するなど、習熟の程度に応じた学習の展開を全教科で意識してできるようになってきた。

- (2) 評価を念頭において指導計画を立てることにより、指導領域の焦点化や学習のポイントを押さえやすくなった。
- (3) 正確に理解しているかどうか、課題の達成度の確認がしやすくなった。生徒の感想等から、授業の見直しもできるようになってきた。
- (4) 学習や意欲のアンケート結果を活用しての学習相談や教育相談が行われるようになってきている。

2. 今後の課題

- (1) 個に応じた指導の充実を図るための手立ての一層の工夫
実態把握（事前の評価、授業中の評価：形成的評価、事後の評価）の在り方を充実させるとともに、結果の活用、個々への支援の工夫についてさらに研究を進めていく必要がある。
おおむね満足できる状況に達しない生徒への補充的な学習場面の検討
授業時間中の学習速度の速い生徒へのよりよい対応の仕方
到達度の効果的な把握の仕方、時間の確保
自己評価力の育成
- (2) 学習習慣を身に付けさせるための工夫（特に、家庭学習への取り組みの充実を図るための支援について）
- (3) 授業改善のための研修の充実
授業改善のためには、授業を多く見てよい点を吸収する事が大切であると考え。校内外において授業参観の機会をできるだけ多く設けていきたい。
- (4) 「確かな学力」の定着状況を把握するための客観的な評価の在り方が課題である。

学力把握のための学校としての取り組み

- ・毎時間の授業の中での評価の時間から、生徒の目標到達度の把握をしていく。また、生徒の様子、反応等を継続観察していく。
- ・単元テスト、年4回の定期テスト、学習状況調査、NRT検査、学習に関するアンケート調査などを実施し、その集計結果から生徒の学力を把握していく。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成15年度

- ・校内授業研究会の実施
教科、道徳、特別活動の授業提示 近隣の小・中学校教員参加
- ・湯沢市南ブロック研究会において実践発表
- ・平成15年度県南地区「確かな学力」向上推進協議会において実践発表
- ・ホームページ上で研究の取組内容の紹介

平成16年10月7日（木）公開研究会開催予定

